

香川大学 大学教育基盤センターニュース

No.18

令和6年6月

*Higher Education Center
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel 087-832-1151~1153
Fax 087-832-1155
<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

目次

1. 2024年度（令和6年度）の大学教育基盤センターの課題について…………… 1
2. 就任及び退任のご挨拶…………… 2
3. 全学共通教育の令和6年度実施に向けた研修会（FD）報告…………… 7
4. 令和6年度新任教員研修会報告…………… 8
5. 注目の全学共通科目のご紹介…………… 10
6. 注目のFD等のご紹介…………… 11
7. 新スタッフからの一言…………… 15

1. 2024 年度(令和 6 年度)の大学教育基盤センターの課題について

大学教育基盤センター長 高橋 尚志

2022 年 4 月から第 4 期中期目標期間が始まり、本学ではそれを期に全学共通教育カリキュラムの全面的な見直しを行い 2 年間実施してきました。私達は私達なりの教養像を議論し、学生が自ら学び進むべき方向を見定めることのできる自己選択力を育むことを押し出し、いくつかの新たな科目を創設してスタートを切り、初年度の 2022 年には大枠の変更を行い、2023 年にはほぼ全ての授業についてリニューアルできました。2024 年はどういう年かということ、完全に新たなカリキュラムになり概ね学生達が全学共通科目を受講しきるところになります。故に、私達の狙い通りに事が進んだか、検証するタイミングに至っているということです。そこで、私達は今年度の課題を以下の通り設定しました。

1. 第 4 期中期目標期間に開始した新全学共通教育カリキュラムの実施
2. DRI 教育の全学展開推進とアセスメントテストの円滑な実施
3. 分野横断型授業科目・ネクストプログラムの充実
4. 数理・データサイエンス・AI 教育事業の充実と四国ブロックへの展開
5. 外国語教育のさらなる充実と新グローバル人材育成プログラムの準備
6. 地域理解に資する教育の多様化と円滑な実施
7. DRI 教育拡充に向けた教員の教授能力の向上と FD コンテンツの充実化

1 番目に掲げているのは、上に述べたことそのものです。また、2 と 3 番目の課題は中期計画において中心的なものとして全学で取り組むものとしており、その全学展開には当センターが先導する役割を担っております。4 番目に関しては、新たに危機管理学と掛け合わせるプログラムを策定し実施することが課題となっています。また、来年度入学する「情報 I」必修化世代に対応したカリキュラムの改編が今年度の必須課題となっています。5 番目については、英語能力の強化策を検討するとともに、外国語の履修にかかる学生のニーズに応えるべく韓国語の陣容を強化し、3 とも関連しグローバル人材育成プログラムに韓国語のコースをラインナップするべく準備を行っています。6 番目の地域理解については、特別主題(地域)やライフデザイン科目の中での多様化に加え、コロナ禍の制約が解かれた条件を活かしフィールドワークである実践型科目の円滑な実施体制を整備していくことが課題となります。また、7 番目の課題については生成 AI が広く利用される環境下においてどう活用するのか教員の教授能力の育成は欠かせません。多忙化している教員に対して十分な FD 受講機会を提供すべく、オンデマンド型コンテンツを充実させることを課題としています。それに加え、SPOD フォーラムが今年 2024 年に香川大学での開催となるので、充実した FD および SD コンテンツを準備して円滑な実施を目指しています。

センターに関わる全てのセンター教職員一同、上述の課題や全学共通教育の円滑な実施に邁進していく所存です。どうぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願いします。

2. 就任及び退任のご挨拶

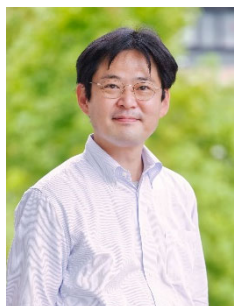
共通教育部長 三宅 岳史



2024年4月から寺尾徹先生の後任としまして共通教育部長となりました。すでに2022年の10月から創造教育部門長を務めておりましたので、今回は兼職という形になります。共通教育部長をお引き受けすることが決まった後、歴代の共通教育部長を務められた何人かの先生に偶然にお会いすることがあり、その際に今回のことを報告する機会がありました。田中健二先生は、確か私が香川大学に赴任した2010年に共通教育部長をちょうどされていたと思うのです

が、共通教育部長に就任することをお知らせすると、ニコッとほほえまれて、ただちに共通教育部長の三つの心得を授かりました（公開の許可をいただいていないので秘密にしておきますが、知りたい人にはこっそり教えます）。中谷博幸先生ともメールのやりとりをする用事がありその際に本件についてもお知らせしたところ、「共通教育部長をなさるのですね。私の経験ではとてもやりがいがありました。他学部の方々と接する機会も貴重でした。」という返信があり、後日実は、現学長が学長をされる以前に教養教育に関連して一緒にお仕事をされたことがあり、そのことについて懐かしそうに振り返られていました。このような励ましを受けまして、現在でも多くの部局や教職員の連携が大学教育基盤センター内で活発なのは、諸先生方の努力によって、今の礎が築かれたためであることができました。これまでの気風を受け継ぎつつ、共通教育部長としては、増えるばかりの業務に対して、本質的なものは残しつつ、全体的に業務をスリム化していくことが必要になっているのではないかと感じています。これまで以上にみなさまにお世話になることが増えるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

調査研究部長 岡田 徹太郎



2024年4月1日から調査研究部長を拝命することとなりました。香川大学での主担当は経済学部ですが、大学教育基盤センターとの関わりもだいぶ長くなりまして、2017年度に科目領域選出コーディネーターとなり、2020年4月からは地域教育部長を務めました。

この間の大きな出来事と言えば、何といても新型コロナウイルス感染症への対応でした。当時はまだ特徴の分からなかった新型コロナウイルスについて、医学論文などを読みあさり、感染症の「専門家」と呼ばれる人びとが発する助言など、できうる限りの情報をかき集め、寺尾徹・共通教育部長(当時)

をはじめとする大教センターの先生方と相談しながら三密回避など感染症対策の形を作り上げていきました。

地域教育部で一番難しかったのは実践型科目と呼んでいるフィールドワーク型授業 14 科目の実施でした。2020 年度当初は、これら科目群の中止もやむを得ないと考えておりましたが、感染対策を行いながら実施可能な代替手段を合わせて講じることで、一科目も中止することなく終えることができました。これは、2020 年 4 月中旬という早期に授業実施の意向に関する情報共有を始め、6 月には実施する場合の対応指針ができ、そして最終的には授業担当の先生方の熱意と努力のおかげで成し得たことでした。

調査研究部長となったこれからのミッションは、コロナ禍という非常時の教育から、いかに平時の教育に戻していくかということです。今の大学生は、高校時代にコロナ禍によって対人関係の制限を受けてきた世代です。どうしても控え目になりがちな人との付き合いを活発化させ、コミュニケーション力を養うような、例えば対面グループワークを伴うような教育を推奨していかなければなりません。

調査研究部長としての初任務は、新任教員研修会での講師でした。これから香川大学で教え始めようとする先生方に、能動的な学びの場づくりについてお話をさせていただきました。

もう一つは、これは経済学部の方での話ですが、5 年ぶりに、300 人教室でのグループワークを再開させました。3～5 人約 70 グループに分かれてもらい、課題発見ワーク、課題解決ワークなどを通じ、新たな気づきを得て、学びを深めてもらおうという授業です。もともと大教センターFD を受けて始めた教育実践でもあります。

これからは、調査研究部長として、先生方にとって教えがいのある環境を、学生諸君に学びがいのある授業を、どのようにしたら提供できるようになるか調査研究を進めていきたいと考えています。

教育学部教授 寺尾 徹



この 4 月に、2018 年度から 6 年間務めてきた大学教育基盤センター共通教育部長を退任いたしました。前年度の後期より務めてきた国際研究支援センター副センター長（国際研究支援センター長）の仕事に専念するということとなります。この 6 年間はほぼそのまま、第 4 期中期目標期間とともにスタートした全学共通教育改革に重なります。

この改革の中で働かせていただいたのは私にとってとても幸せな経験となりました。必ずしも小さくない改革だったと思いますが、多くの方が協力的に対応してくださいました。改革に際してこれまでの大学教育基盤センターの努力してきた道筋を大切にすることもありますが、なによりも大教センターが強固な全学的合意のもとに運用されてきたこと、優秀な事務スタッフ、センター長をはじめとする教員スタッフの力に支

えていただきました。何度も教養教育担当組織の全国会議等にも参加してきましたが、全国的に見ても本学の共通教育はうまく合意を大切にしながら教養教育を展開できていると感じています。この到達点を大切に、着実に発展させていきたいものです。「今や VUCA 時代で教養はたちどころに陳腐化する。技法とコンピテンシーこそが大切。」みたいな言い方がありますが、「学問への扉」はこういう風潮へのアンチテーゼのつもりでした。営々と積み上げられ、今学問が夢中になっている現実の知の世界は陳腐化などするはずがないし、やはり学問内容の魅力にこそ知的基盤があると思うのです。

今回の改革では「第4期中期目標期間に向けた全学共通カリキュラム検討WG」と、「第4期中期目標期間に向けた全学共通教育改革理念検討WG」を通じて、課題の洗い出しと改革案の作成を進めました。そこには特に調査研究部に集まった諸学部の先生方のお知恵を集めることができました。「学びと生き方科目」のアイデア、必ずしも必修ではない推奨科目としての「学問への扉」への注力、そして「科目領域コーディネーター制度」による科目領域間の協力のしくみとともに、こうしたボトムアップの検討があったおかげです。「科目領域コーディネーター制度」を通じて、新しい学際的科目も多く生まれました。新入生に大学の学問の魅力を伝えようとする先生方の「教え心」も刺激できたと思います。

引き続き副センター長として、特にインターナショナルオフィスとの有機的な関係を築きながら、香川大学の学びの魅力を国際的にも発信していきたいと考えています。

農学部教授 野村 美加



2020年4月から調査研究部長として大教センターの業務に携わらせて頂き心より感謝申し上げます。この度、2024年3月末をもちまして退任することとなりました。この4年間、共通教育の推進や大教センターの発展に向けて皆様と共に様々な取り組みを行ってまいりました。

調査研究部には、2017年4月から2年間学部選出共通教育コーディネーターとして参加しておりましたので業務については（なんとなく）大変だと理解しておりましたが、実際に（予想通り）大変でした。調査研究部長としての4年間で一番印象にありますのは、着任してすぐ2020年4月新型コロナウイルス影響下での遠隔授業の導入です。香川大学のWEB授業はe-Learning等で行われてきた実績はありますが、全ての教員が直ちにWEB授業操作を修得しなくてはならないという直面にさしかかった時期です。この時期に大教センターの一員として業務に携わらせていただけましたことは、大変貴重な体験となりました。

また、2022年度の全学共通教育カリキュラム改革にも深く関わることもできました。第4期中期計画にむけて新たに科目領域コーディネーター制度の導入を行ってまいりました。その中で「学問への扉」の新科目企画のためのグループミーティング、シラバスや内部質保

証の確認など多岐にわたる活動を皆様と共に過ごすことができ多くのことを学ぶ機会を頂きました。この4年間の活動につきましては、香川大学教育研究18号-21号にまとめさせて頂く機会にも恵まれました。

共通教育の充実と大教センターの発展に努めてまいりましたが、その過程で多くの方々からご支援とご協力をいただきましたこと深く感謝しております。特に、大教センター長をはじめ、共通教育部長、大教センター主担当教員の先生方、共通教育コーディネーターの先生方、修学支援課の皆様にご心からの感謝を申し上げます。皆様と共に働くことができたのは、私にとって大きな宝物です。皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。4年間本当にありがとうございました。

最後になりますが、これからも全学共通教育の発展と大教センター更なる飛躍を心よりお祈り申し上げます。

大学教育基盤センター教授 最上 英明



1990年10月に教育学部に着任後、経済学部を経て大学教育基盤センターで定年を迎えるまでの33年半、無事に過ごすことができたのは、数多くの同僚の教職員の皆様方の温かいご支援のおかげと感謝の念に堪えません。

大学ではもっぱらドイツ語教育を中心に教育活動を進めてきました。学生を海外に引率し、現地で短期間の語学研修を受けてもらい、各地を視察する海外研修の先陣を切ったのはドイツ語で、2003年にスタートしました。この最初の海外研修の引率を担当したのは私でしたが、語学研修を企画した上司の教員から、大学のイベントは前年度に予算がつき、新年度に申請しても予算が出ないので、自費で引率して欲しいと頼まれたことは、今でも記憶に残っています。その後、2005年と2008年に引率を担当したあと、10年間は経済学部の教員が引率を担当し、センターに移籍していた私には出番がなかったのですが、ドイツに引率する教員が経済学部から転出することになり、2018年と2020年は私がまた引率を担当し、意欲的な学生諸君とドイツ各地を見聞できたことは、貴重な体験だったと、これも感謝しております。

第1次世界大戦中、ドイツの租借地だった青島を日本が占領したことから、四国にはドイツ人捕虜が数多くやって来ました。そのほとんどが志願兵でインテリが多かったため、鳴門の板東でベートーヴェンの第9が日本初演されるなど、文化活動の足跡も残されています。私が鳴門市ドイツ館史料研究会に参加したときには、板東の収容所新聞は翻訳出版されており、未翻訳だった松山の収容所新聞の翻訳作業が開始しました。新聞といっても、エッセイや論文の掲載された冊子で、私が翻訳を担当したエッセイには「タイの中心を通る鉄道」と題されたものがあり、タイの地理にも歴史にもまったく不案内なので、文献をあれこれ参照しながら苦勞して翻訳しました。世の中とは不思議なもので、この春から長男がタイに転

勤しました。海外旅行というと、これまではヨーロッパが中心でしたが、定年後の最初の海外旅行は東南アジアのタイになりそうです。今後は世界をより広い観点から眺められるようになるのではと、楽しみにしているところです。今後も高松に在住し、翻訳や執筆の仕事も細々と続けていく予定ですので、どうぞよろしくお願いします。（『ラーガーフォイアー 松山俘虜収容所新聞』第1巻 2022年は、鳴門市ドイツ館でのみ販売されています。）

3. 全学共通教育の令和6年度実施に向けた研修会(FD)報告

日時：令和5年12月12日（火）13:00～16:10

場所：幸町北キャンパス 321 教室及びオンライン開催（Zoom）

次年度の令和6年度における全学共通教育担当者を対象にした「全学共通教育の令和6年度実施に向けた研修会」が、開催されました。開催方式は、講義室の対面とZoomによるオンラインのハイブリッドでした。参加者は、第1部が83名、第2部が59名でした。

第1部では、3つの報告がありました。第1報告は、「香川大学の数理DSの取り組みについて」（高橋尚志 大学教育基盤センター長）でした。数理・データサイエンス・AI教育における全国展開の活動や地域ブロックに関する説明のあと、本学が実施している事業「『危機管理学×数理・データサイエンス・AI』による応用基礎力教育モデルの展開と普及」について説明がありました。第2報告は、「DRIのアセスメントテスト実施報告」（藤澤修平 大学教育基盤センター特命講師）でした。DRI教育アセスメントテストは本学が取り組んでいるDRI教育の学修成果を可視化するための検定試験で、令和5年度に実施された検定試験の受験率や合格率等に関して報告がありました。第3報告は、「第4期全学共通改革の新カリキュラムの検証」（寺尾徹 大学教育基盤センター共通教育部長、宮崎英一 大学教育基盤センター数理情報・遠隔教育部長、西本佳代 大学教育基盤センター准教授）でした。第4期中期目標期間における全学共通教育改革の経過と検証に関する説明と、「学問への扉」に関するアンケートの検証について説明がありました。次に、知プラe科目の検証についても説明がありました。最後に予定されていた全学共通教育新カリキュラムの受講動向については、時間の都合により行われませんでした。『香川大学教育研究』21巻に「全学共通教育新カリキュラムの受講動向」というタイトルで所収されることが報告されました（後日、上記の予定通り発行されました。文末にリンクを掲載しています）。

第2部では、「効果的な振り返り（リフレクション）の促し—概要と実践事例—」（蝶慎一 大学教育基盤センター准教授、岡田徹太郎 経済学部教授、鶴町徳昭 創造工学部教授）と題して、3つの報告がありました。第1報告では、「振り返り（リフレクション）」が必要とされる背景と実態の概要、「振り返り（リフレクション）」の定義と基本的な考え方、そして、担当教員としての「振り返り（リフレクション）」の促し方について、説明がなされました。第2報告と第3報告では、授業で行っている実践事例について報告がありました。授業の実践事例を通して、授業の進め方や、学生と教員のそれぞれの立場での「振り返り（リフレクション）」に関する活動内容や気をつけること等が、詳しく説明されました。

詳細は『香川大学教育研究』第21号所収の報告をご覧ください。[香川大学学術情報リポ
ジトリ \(nii.ac.jp\)](http://www.nii.ac.jp)からPDF版をダウンロードすることができます。

（文責・小坂有資）

4. 令和6年度新任教員研修会報告

日時：令和6年4月8日（月）9:00～16:35

場所：教育学部 321 講義室（幸町北キャンパス 3 号館 2 階）

教育学部 525 講義室（幸町北キャンパス 5 号館 2 階）

【プログラム】

午前の部 9:00～12:10

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1. 開会挨拶 | 上田夏生（学長） |
| 2. 香川大学 教育の現状と今後について | 野崎武司（教育担当理事） |
| 3. 研究活動について | 秋光和也（研究担当理事） |
| 4. コンプライアンスを考える | 真鍋光輝（総務・労務担当理事） |
| 5. 香川大学の地域連携の取組について
（産学官連携の推進） | 原直行（産学官連携・特命担当副学長） |
| 6. 教員の活動評価について | 野口里美（企画・評価・ダイバーシティ
担当理事・副学長） |
| 7. 研究インテグリティについて | 石原淳也（産学連携・知的財産センター特命教授） |
| 8. コンプライアンスを考える
化学物質規制に係る法改正の概要について | 真鍋光輝（総務・労務担当理事） |
| 9. 情報セキュリティーについて | 吉田秀典（危機管理・学術・特命担当副学長） |
| 10. 各部署からの事務説明 | 保健管理センター・学生支援センター・
ダイバーシティ推進室 |

午後の部 13:30～16:35

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1. 午後の部の趣旨説明 | 松本洋明（大教センター能力開発部長） |
| 2. 令和6年度全学共通教育の
枠組みと運営体制 | 三宅岳史（大教センター共通教育部長） |
| 3. 令和6年度全学共通教育の方法について | 岡田徹太郎（大教センター調査研究部長） |
| 4. 香川大学におけるFDの概要について | 蝶慎一（大教センター） |
| 5. スキルアップ講座について | 西本佳代（大教センター） |
| 6. 新任教員お悩み相談 | 佐藤慶太（大教センター） |
| 7. 修了式 | |

令和6年度の新任教員研修会が4月8日に開催されました。本年度は26名のご参加がございました。令和2年度以降の3か年ではコロナ禍の影響で、対面方式での実施ではあるもののグループワークなどを行わず、感染対策を充分に行いながら実施してまいりましたが、コロナの状況もだいぶ収まってきており、昨年度より講義形式に加えてグループワークも再開され本年度も更にこのグループワークを充実化させることが出来ました。午前中では学長のご挨拶の後、教育・研究・教員評価・



コンプライアンス・地域連携・学生支援・保健管理・情報セキュリティー等について、それぞれ担当の理事・副学長・教員からご説明ございました。午後は大学教育基盤センターが全学共通教育に関する説明、また Faculty Development(FD)の概要、スキルアップ講座について説明が行われました。



午後の部では、まず大学教育基盤センター能力開発部長（松本）の趣旨説明の後に三宅共通教育部長より令和 6 年度全学共通教育の枠組みと運営体制についてご説明ございました。その後、全学共通教育の方法としてアイスブレイクを介して、どのようにグループワークをしていくのか、いわゆる“アクティブラーニング”のアプローチ

から岡田調査研究部長より実際の新任教員がグループワークを介して、ご教示頂きました。

その後に休憩を挟み、蝶教員（大学教育基盤センター）より香川大学における FD の概要について詳細にご説明があり、また西本教員（大学教育基盤センター）よりスキルアップ講座について講義頂きました（特にここではアクティブラーニングについて講義頂きました）。その後、各学部から選出された能力開発部委員により、新任教員お悩み相談の時間が設けられました（佐藤教員（大学教育センター）司会）。その際に、参加者から多くの質問があり、能力開発部委員が丁寧に説明・回答を頂きました。

最後に修了式が開催され（高橋大学教育基盤センター長よりお話頂きました）、能力開発部長（松本）より「新任教員研修プログラム」の受講対象者にガイダンスを実施し、受講すべき意義と背景について説明を致しました。令和 6 年度の新任教員研修ワークショップは 8 月 28 日（木）より香川大学にて開催される四国地区大学教育職員能力開発ネットワーク（SPOD）にて代替開催されることを参加者の皆さんにアナウンスを致しました。

また研修会終了後では懇親会も再開され、ここでは学長および理事も参加され、参加者一同、緊張の面持ちではございましたが楽しい時間を過ごしながら、香川大学の方針等について色々学んで頂けたかと存じます。

（文責：松本洋明）

5. 注目の全学共通科目のご紹介

■ 学問基礎科目・文系科目「社会学 B」

本授業では社会学の視点を使って日常の「当たり前」を相対化して観察できるようになることを目指しています。異文化に接する経験の少ない学生にとっては、社会学が分析したい「当たり前」とはそもそも何であるのかということを確認することや、その視点に納得感を得ることが難しいと考えられます。本授業では「宇宙人類学」の発想を借用し、私たちとは生態もコミュニケーションのあり方も常識も全く異なるであろう「宇宙人」が私たちの日常を観察したら何を疑問に思うだろう？という問いかけから、社会学の視点を紹介しつつ日常の「当たり前」を相対化する視点・手法の紹介を行っています。第6回・7回の授業では、学会形式のチーム発表を行いました。



チーム発表の様子

(文責・河合史子)

【チーム発表のプログラム】

2024年5月21日(火曜) *2部屋で同時並行開催

時間	セッション1：結婚・家族	セッション2：食習慣
10:35-10:50	チーム1 「政略結婚について」	チーム4 「食文化：パン」
10:55-11:10	チーム2 「ペットの飼育」	チーム5 「食器を使って食べる」
11:15-11:30	チーム3 「日本の結婚式の変化」	チーム6 「和食文化を守る」
11:35-11:50	全体討論	チーム7 「昆虫食文化」
11:50-12:00	(随時別セッションへ)	全体討論

2024年5月28日(火曜) *2部屋で同時並行開催

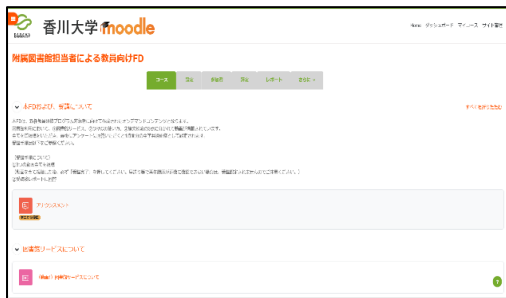
時間	セッション3：まじない・宗教	セッション4：趣味・芸術
10:35-10:50	チーム8 「ウクライナ侵攻から冷戦を知る」	チーム12 「音楽を聴くこと」
10:55-11:10	チーム9 「死：現代日本における火葬」	チーム13 「変容する肖像画」
11:15-11:30	チーム10 「初詣について」	チーム14 「漫画」
11:35-11:50	チーム11 「病を治すために人々が取る行動」	全体討論
11:50-12:00	全体討論	(822教室に移動)

6. 注目のFD等のご紹介

令和5年度12月以降に新たに実施したFDをご紹介します。

- 講義名：附属図書館担当者による教員向けFD
- 日時：令和5年12月13日（水）～令和6年3月31日（日）
- 開催方法：オンデマンド（香川大学 Moodle）
- 講師：渡辺忠、鈴木美智子、吉田弘子、河原桂子（情報図書課）
- 参加者：11名

令和5年12月より、新たに附属図書館の担当者による「図書館サービス」、「OPACの使い方」、「論文検索」に関する説明や解説を聞くことのできるオンデマンド型の新たなFDを



企画、実施致しました。

大学教育基盤センターの主任担当教員・職員と附属図書館の担当者が、令和5年初夏から継続的な話し合いを重ね、実現致しました新規のFDです。この場をお借りして附属図書館の担当者の皆様方には御礼申し上げます。

本FDを受講頂きました新任教員を含む全学の教員の皆様からは、あらためて本学の図書館の活用方法を知ることができた点、論文検索の具体的な方法を分かりやすく理解できた点など、大変好評を頂きました。また、こうした教員を対象とした図書館関連のFDはニーズが高い実態も把握できましたので、今後の能力開発部でのFD実施計画の際には参考にして参ります。今年

度（令和6年度）も引き続きオンデマンドで実施しておりますので、教員の皆様には是非ご視聴を頂けましたら幸いです。

（文責：蝶 慎一）

- 講義名：Teams「クラス」の授業への活用
- 日時：令和6年1月24日（水）10:00～10:45
- 開催方法：オンライン開催（Microsoft Teams）
- 講師：清水佳奈、安土正枝、渡部昌尚、林敏浩、藤本憲市
（情報化推進統合拠点 教育情報推進支援センター）
- 参加者：48名

Microsoft Teams でチームを作成する際、チームのテンプレートには「クラス」「プロフェッショナル ラーニング コミュニティ (PLC)」「スタッフ」「その他」の 4 種類があります。本 FD では、課題管理機能等があり、授業やゼミでの利用に適しており、学生の進捗状況（課題提出～返却まで）を教員が把握できる「クラス」の活用方法について説明がありました。「クラス」の作成や設定の方法、そして、「クラス」で使用することができる機能について詳しい説明があり、Teams「クラス」を（あまり）授業に活用したことがない教員にも理解しやすい内容でした。

（文責：小坂有資）

- 講義名：デジタル時代のデザインアプローチの必要性とクリエイティビティの発揮
- 日時：令和 6 年 2 月 27 日（火）10：30～12：00
- 開催方法：ハイブリッド（遠隔配信：Microsoft Teams / 対面：幸町北キャンパス 321 教室）
- 講師：森下晶代
（富士通株式会社 戦略アライアンス本部 Strategy&Co-Creation / ハナラボ代表理事）
- 参加者：50 名

本 FD では、企業がデザイン思考を重視する理由や、実際の活用事例を通して、デザイン思考の必要性についての理解を深めることができました。特に、デザイン思考を取り入れるうえで外せないフレームワークとして「カンサツ（リサーチ）」と「問いづくり」が強調されており、「How might we ~?」という問いの立て方を学ぶことで、本質的で解決する意義のある問いに変換する手法は興味深いものでした。この FD を通じて、急速に変化するデジタル社会においてデザイン思考がいかに重要であるかを再認識し、社会の変化に適応しつつ課題を解決へ導くための新たな視点を得ることができました。

（文責：藤澤修平）

■ 令和 5 年度後期 FD 実施報告

大学教育基盤センターでは、令和 5 年 12 月以降に以下のとおり FD を実施しました。

講義名：課題探求型（主題科目）授業をデザインするコツ
日 時：令和 5 年 12 月 18 日（月）～令和 6 年 3 月 31 日（日）
開催方法：オンデマンド（香川大学 Moodle）
講 師：小坂有資、佐藤慶太、三宅岳史など調査研究部常設 WG メンバー （大学教育基盤センター）
参加者：12 名（受講対象・令和 6 年度主題科目担当者教員）

講義名：学生の学びを促すシラバスの書き方

日 時：令和5年12月25日（月）10:30～12:00

場 所：525 講義室（幸町北キャンパス）

講 師：蝶慎一（大学教育基盤センター准教授）

参加者：10名

講義名：学生参加型授業の技法

日 時：令和5年12月25日（月）13:00～14:30

場 所：525 講義室（幸町北キャンパス）

講 師：西本佳代（大学教育基盤センター准教授）

参加者：9名

講義名：基礎から学ぶ学習評価法

日 時：令和5年12月25日（月）14:40～16:10

場 所：525 講義室（幸町北キャンパス）

講 師：佐藤慶太（大学教育基盤センター教授）

参加者：9名

講義名：シラバス・授業を改善しよう

日 時：令和5年12月26日（火）10:00～15:00

場 所：525 講義室（幸町北キャンパス）

講 師：蝶慎一・西本佳代・佐藤慶太（大学教育基盤センター）

参加者：7名

講義名：DRIを各自の授業で活用するために

日 時：令和6年3月18日（月）～3月31日（日）

開催方法：オンデマンド（香川大学 Moodle）

講 師：小坂有資・藤澤修平（大学教育基盤センター）

石塚昭彦・高橋亨輔（創造工学部）

参加者：12名

講義名：「アカデミック・スキル」をどう教えるか

日 時：令和6年3月22日（金）～3月31日（日）

開催方法：オンデマンド（香川大学 Moodle）

講 師：佐藤慶太・蝶慎一・西本佳代（大学教育基盤センター）

高水徹（インターナショナルオフィス）

参加者：7名（受講対象：新任教員研修プログラム対象者、令和6年度大学入門ゼミ担当教員）

また、次年度にティーチング・フェローとして活動予定の大学院生を対象とした TF 講習会を、9月に引き続き、以下のとおり実施しました。

講義名：ティーチング・フェロー（TF）講習会

日 時：令和6年2月21日（水）13:00～17:50

場 所：811 講義室（幸町北キャンパス）

講 師：松本洋明・蝶慎一・西本佳代・佐藤慶太・能力開発部委員
（大学教育基盤センター）

参加者：2名

7. 新スタッフから一言

大学教育基盤センター特命講師 Albers Marius



令和6年度より大学教育基盤センターのドイツ語特命講師に採用されましたアルベルス・マリウスと申します。マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルクで日本学と外国語としてのドイツ語の修士号を取得してから、ドイツで1年間ドイツ語教師として働いた後、香川県に来て、最初は避けていたうどんが大好きになって、本学で7年間非常勤講師として働きました。特命講師としても、常に教え方を向上させたいと考えています。さらに、授業以外でも大学生の疑問などを熱心にサポートするのは、私の仕事のひとつだと考えています。外国語習得が興味のある分野です。特に研究したいのは、新しい文法や使い方を、学生たち自身に帰納的な思考により発見させることです。

私の目標は、ドイツ語とドイツ語圏が日本で再び注目されるようになることです。また、より多くの日本の若者がドイツだけでなく、外国全般に興味を持ってくれることを願っています。海外で生活し、異なる文化や考え方に慣れ親しむと、自国を違った角度から知ることができるので、学生たちのために力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

大学教育基盤センター特命講師 李 九妹



皆さま、初めまして。令和6年4月1日より中国語特命講師に採用されました李九妹（リキュウマイ）と申します。

よく9人兄弟ですかって聞かれますが、はい、でも実兄弟ではなく、従兄妹で9番目でしたので、そのまま名づけられました。昔はラクして簡単に名づけられたと思いましたが、初対面でもすぐ名前を覚えていただけますので、今は両親に感謝しています。

最初日本へ留学に来たのは香川で、社会人になって東京で数年間生活しましたが、また母校に戻り教育に携わることができ、大変光栄で嬉しく思っております。今後、私の留学や会社勤めの経験を活かし、学生に語学力だけではなく、中国の文化や習慣、社会等も可能なかぎり伝え、異文化を知ることや異国生活の楽しさを感じてもらい、国際社会に活躍できるグローバル人材に育成できるよう努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

修学支援課 係長 宮崎 真美

約13年ぶりに本学キャンパスへ配属され、令和6年4月より修学支援課職員として勤務しています宮崎 真美です。

授業の他、限られた大学生活においてこそ、体感できる学びが多数あります。全学共通教育科目を中心として、幅広く学生や教職員の方々のサポートが出来ますように努めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

修学支援課 野崎 真湖

令和6年4月付で、教育・学生支援部 修学支援課に採用となりました野崎真湖と申します。

初めてのことで至らない点が多々あると思いますが、学生が充実した学生生活を送ることができるよう、精一杯、学生・教員の方のサポートに努めて参りますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援課）までお願いします。